



学校だより

末子配付

第4号ジャカルタ日本人学校
令和3年(2021年)7月30日
校長 緒方克行
TEL: 021-745-4130

「素晴らしいです、オンライン授業も！」

コロナに負けず、JJSの児童・生徒、教員が力を合わせて取り組んでいるオンライン授業を覗いてみると・・・

「えっ、先生！もうおしまいなの？！」

小学部5年生の社会科の授業で、無農薬の高価なお米を買うか、農薬を使った安価な米を買うかについて、子どもたちは議論していたところ、担任から次に見るビデオを紹介されたときに発せられた言葉です。もっと議論したい、もっと意見を言いたいという気持ちがそう言わせてなのでしょう。

「友達のすごいところがいっぱいあった！」

小学部2年生の集会でオンラインオリンピックに取り組んだときに発せられた言葉です。このクラスは、オンライン上で取り組む競技を考え当日を迎えました。限られた画面の枠の中でできることを2年生なりに真剣に工夫し考えたからこそ、友達の演技がどうなっているかが気になり、じっくりと見たときの気持ちがそう言わせてなのでしょう。

どちらも、オンライン授業であっても子どもの思いが高まり、充実した授業ができるということを示したものとと言えます。

「自分が壁にぶつかったとき、どうすれば良いかわかりました」

中学部3年生が、日本にいるJリーガーの森選手とオンラインでつながり、お話を聞いた後の感想の中で発せられた言葉です。最高学年らしく質問に答えてもらうだけでなく、返された答えにさらに踏み込んだ質問を返す姿を見せていました。最初は笑顔だった森選手が子どもたちとの問答を続けていくにつれ、顔が真剣になってきていました。子どもたちも真正面から言葉を受け止めていました。受験という大きな壁を前にして、両者のやりとりが深まり、そう言わせてなのでしょう。

「ポジティブで素敵な考え方が聞けてよかったです！」

中学部2年生がバリ島で20年以上ブティックを営んでいる日本人の生島さんの話を聞いた後に発せられた言葉です。人の生き方をご自分の経験を元に軽快な口調でお話しされ、子どもたちは引き込まれ聞き入っていました。これまでもっていなかった生き方に触れ、それに共感できとことがそう言わせてなのでしょう。

オンラインだからできることがたくさんあります。ジャカルタ在住の子どもと日本に一時帰国している子どもが、Jリーガーやバリ島に住む日本人とつながること、これはオンラインならではの業です。

ここにあげた例は、全体のほんの一部です。すべてを紹介できないことが残念ですが、PCの限られた画面の中は、子どもたちが精一杯に学習に取り組んでいる姿で満たされています。もちろんトータルで考えると対面授業にはかないませんが、でも、オンラインであっても授業は深まり、子どもたちは生き生きとした姿を見せてくれています。

まだ、しばらくはオンライン授業が続くことが考えられます。JJSでは、時々状況を受け入れ、子どもたちと一緒に有意義な授業を展開していきます。